



令和5年4月27日

## 5月 調布幼稚園だより



### 『シンボルツリー』

園長 山形美津子

調布幼稚園のサクランボの木にたくさんの赤いサクランボの実が付きました。早速、年長組の子どもたちにお家の人と一緒にサクランボを収穫してもらいました。年長組は皆6歳になるので、6粒ずつ、お家に持ち帰りました。このサクランボの木は、調布学園の校友会という同窓会から寄贈されたものです。毎年、真っ赤な実を付けて、子どもたちを楽しませてくれることに感謝しています。

木にまつわるお話で、もう一つ悲しいお知らせがあります。保護者の皆様にはお知らせしましたが、調布幼稚園の「シンボルツリー」である『理事長先生の柿の木』を、先日（22日）伐木しました。

昨年は葉が茂り、実を付けてくれたのですが、今年は葉が全く茂らず木肌を見ると元気がない状態で、おかしいなと思いました。お世話になっている植木屋さんに診断していただいたところ、木は枯れてしまっていて高いところの枝が折れて落ちてくる可能性があり、危険な状態であると診断されました。園児の安全を第一に考え、とても残念で淋しいことですが、伐木することにしました。

この柿の木は、理事長先生がお誕生されたときに植えられた記念の木で、何十年もの間、この地で調布幼稚園の園児を見守り続けてくれた大切な木です。これまでに何千個もの甘い柿の実を付けてくれて園児たちと食したと聞いています。木の周りで子どもたちは、ままごとをしたり、時にはダンスを踊ったりしました。調布幼稚園のシンボルツリーとして、いつも子どもたちを見守ってくれていました。

子どもたちにも話すと、子どもたちは、柿の木に「今までありがとう」「さようなら」「いつまでも忘れないよ」と別れを惜しんで、木に抱きついたり、いろいろな言葉を伝えたりしていました。子どもたちも淋しがっていましたが、この別れで、子どもたちには生きているものを大切にする気持ちやいたわりの気持ちを育むことができたと思っています。「シンボルツリー二世」については、理事長先生と相談します。

さて、先日は学年ごとに保護者会を開催させていただきました。学年ごとに保護者の皆様にお集まりいただき、一同に会して保護者会が開催できたのは4年ぶりとのことでした。幼稚園の方針などを直接、皆さんにお伝えできてとても嬉しく思いました。ご出席いただき、ありがとうございました。

入園して間がない年少組ですが、登園時に自分のカバン等を所定の場所に置き、好きな遊びを見付け遊び始める子、園庭が大好きで園庭に出ると砂場や滑り台や汽車に乗ってかけっこをする子等、外の遊びを楽しむ子、様々ですが、中にはまだお家の人と離れることに不安があるお子さんもいます。幼稚園は安心して過ごせる場であると思えるように温かく見守っていきます。

年中組は、自分たちより小さい組の子がいることで誇らしい気持ちをもっているのだと思いますが、年少組の時と比べると堂々としていて、この1～2か月の心の成長、自分が大きくなったんだという気持ちが芽生えていることは素晴らしいと思います。

年長組は最年長クラスになったことで、園全体の当番活動（草花への水やりや飼育物への餌やり等）を任されたり、この時期の園のシンボルとなる友達と力を合わせて作った大きな鯉のぼりを園庭に掲げること等、意気揚々と取り組んでいます。畑での栽培活動も始まっています。

どの学年の子どもたちも新年度が始まり、新たな環境の中で一生懸命、園生活を過ごしている姿が見られ、これからの遊びや活動が楽しみです。保護者の皆様も楽しみにしてください。

保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご指導ご支援の程、よろしくお願い致します。

## 今後の栽培・収穫 計画

幼稚園内の木の実や子どもたちが栽培している物についてお知らせします。収穫や調理の方法をその都度検討し、可能な範囲で収穫物の調理は取り入れて参ります。必要に応じて、収穫や調理の方法についてお知らせします。

学年	園内の木の実・栽培するもの(予定)
全園児	サクランボ サトイモ ビワ ウメ 柿 ミカン キウイ シシトウ キュウリ 等
年少組	エダマメ
年中組	つるありインゲン オクラ コマツナ シュンギク トマト ピーマン
年長組	ソラマメ ジャガイモ ナス 米 サツマイモ ダイコン

### 5月の目標

#### 全学年

- 手洗い、うがい、咳エチケットの仕方を知り、しっかり行う。
- 飼育物や栽培物に関心や親しみをもつ。
- 学年毎に行う栽培物に関心をもち、土づくりをしたり、種や苗を植えて生長過程を見たり収穫に期待をもちたりする。

#### 年少組

- 担任に親しみをもち、安心して生活する。
- 担任とのかかわりを基盤に、気に入った場所や遊具を見つけて遊ぼうとする。

#### 年中組

- 担任とのかかわりを基盤に、自分の思いを表しながら友達と遊ぶ。
- 当番活動などを通し、自分たちの生活を自分たちで進めようとする。
- 身近な遊具、用具、廃材などを使ってやりたい遊びを楽しむ。

#### 年長組

- 自分のやりたい遊びに夢中で取り組んだり、友達や担任及び他のクラスの先生たちとのかかわりを楽しんだりしながら、クラスのつながりを感じる。
- 飼育物や栽培物、自然現象に関心や親しみをもつ。また、自然物を取り入れて遊ぶ中で考えたり、試したり、砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりして遊びを楽しむ。
- 新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。
- 栽培に必要な畝をつくったり、田んぼの泥の感触を味わったりして、苗を植えたり、田植えをしたりして生長を楽しみにし、収穫を期待する。



## 季節の歌

顧問 外崎明美

若葉が薫る気持ちの良い時期になりました。調布幼稚園では5月5日の「こどもの日」のお節句を前に学年毎、発達に合わせて、こいのぼりや兜を作りました。5月の季節の歌と言えば、思い浮かぶのは「こいのぼり」 調布幼稚園の園庭では年長児が初めての共同製作で作った大きなこいのぼりが元気よく大空のもと泳いでいます。幼稚園でも、先生と子どもたちとで「こいのぼりの歌」を元気に歌っていますので、ご家庭でも年少さんが初めて作ったこいのぼりや年中さんが頑張って作った兜を見ながら、ぜひ歌って下さいね。

さて、今月の「季節の歌」では、今まさに調布幼稚園ならではの二つの歌をご紹介します。オタマジャクシの歌の作詞者、作曲者が分からず申し訳ありません。

### おたまじゃくし

くろい くろい  
おたまじゃくし  
ひらひら ひらひら およいでる  
しっぽがとれたら  
かえるさん



朝、昇降口のところに「おたまじゃくし」を出していますが、このオタマジャクシは春先、カエルがゼリー状の卵を産んですぐのものを教員が見付けて幼稚園に持ってきたものです。最初はゼリー状の中に黒い粒粒状態でしたが、ゼリーもなくなり、オタマジャクシになりました。これから、カエルになったら、年長さんが田植えをする田んぼに逃がします。都会の中の調布幼稚園で、オタマジャクシやカエルがいる田園風景を楽しんでもらえることと思います。

卵から見せたいという教員の熱い思いが、子どもたちの心を躍動させ、驚きや卵からオタマジャクシへの変化への気付き、様子などを見て感動する心を育みます。

### さくらんぼ

作詞、作曲 登坂鹿立

そよそよかぜが ふいてます  
あおいはっばが ゆれてます  
はっばのかげから サクランボ  
でたり ひっこんだり かくれんぼ



調布学園後援会である「校友会」からサクランボの木が平成16年に植樹されました。それ以来、毎年、春には桜の花を、初夏には、たくさんの真っ赤なサクランボを実らせて、園児や保護者、道行く人の目を楽しませてくれています。コロナ禍では幼稚園でサクランボを食べることが叶わず、今年も年長さんが、自分で歳の数、6個もいでビニール袋に入れて持って帰りました。コロナ前は、机に座っている年少さんには先生が実の付いた枝を目の前で見せ、その後、きれいに洗ったサクランボを一人一粒ずつ種が喉に詰まらないように、大事に食べたものです。年中さんになると、もう少したくさん、年長さんは、自分で木から赤い実を見付けてはもいで洗って、何度も食べていました。木の上の方のサクランボは残しておいて、小鳥さんにもご馳走します。

調布幼稚園の子どもたちが喜んでサクランボを見たり、食べたりすることを、サクランボの木を通して「校友会」である後援会が見守って下さっています。